

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

急変時の対応、肺がんの手術、抗がん剤治療、KYT 等計 6 回の勉強会を実施。欠席者には毎回動画撮影し後日視聴できるようにした。手術パスの勉強会では医師と協力し、パスの見直しを行った。退院後の生活について自動車の運転や運動等説明事項を挿入することで統一した退院指導ができるようになった。

デスクカンファレンスを開催し、患者の思いに寄り添えた場面、希望に添えず悔やんだ場面等を共有し、今後の課題を話し合う機会となった。看護倫理的問題については医師を交えたカンファレンスを行うことで抑制を解除する方向性を見いだした事例もあった。スタッフが終末期にある患者の希望を叶えようという意識向上につながった。

2) 病院目標・経営に参画する

朝のミーティングでの声掛けと、SPDシールの貼られたものはすぐに捨てずに、いったん保管してはがし忘れをチェックしながら破棄することにし、紛失防止に取り組んだ。

病床利用率 82.0%、重症個室稼働率 96.9%、有料個室稼働率 98.2%であった。NHF、BIPAP、RESP等の装着患者が多くあり、重症個室稼働率は目標値を大きく上回った

後期の排尿自立支援加算の月平均取得率は 93.6%であり記入漏れは減少。ラウンド前の介入を徹底し入力漏れがないように引き続き取り組んでいく。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

今年度の転倒転落件数は増加しており、要因の約 8 割がリスクの認識不足、リスクへの対応不足が占めている。環境確認ラウンド用紙を配布するなどして活用を促していく。

手指消毒、PPE の正しい装着について、毎月周知と個別指導を行い、実施にてチェックを行った各個人が正しい感染防止対策を身に着けるため、引き続きチェックと個別指導に取り組む。

4) 専門職としての能力開発に努める

事例研究は国立病院総合医学会にポスター発表。看護研究は、院内看護研究発表会に発表。病棟看護師の 1 割以上がランクアップすることができた。

5) 看護の先輩として学生に関わる

スタッフは学生を名前で呼ぶよう意識し、学生に積極的に関わり、受け入れ体制の評価が 4.6 となった。学校と連携をとり、スタッフの意欲関心の向上に取り組む。

6) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する

PNS ペアで年間目標を設定し目標達成に向けた支援を行う計画であったが、長期の病気休暇、産前休暇、配置換え等により年度の途中で 12 ペア中6ペアが解消となり、ペアでの目標達成が困難な状況であった。来年度 PNS 委員を中心に年間ペアが協力できる体制作りを行う必要がある。

2. 病床運営状況

表 1 令和 4 年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数(人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	呼吸器	72.4	84.6	39.3	14.8	81.8	87.9

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	97.1	7	98.3	54

3. 看護体制

表 2 令和 4 年度 看護体制(令和 4 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
28	PNS [®]	3:3

4. 看護統計

1)重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 4 年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度Ⅱ

基準を満たす 患者の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		28.1	26.8	22.4	27.5	19.8	22.8	23.5	20.7	28.3	31.6	32.5	26.0

2)部署データ

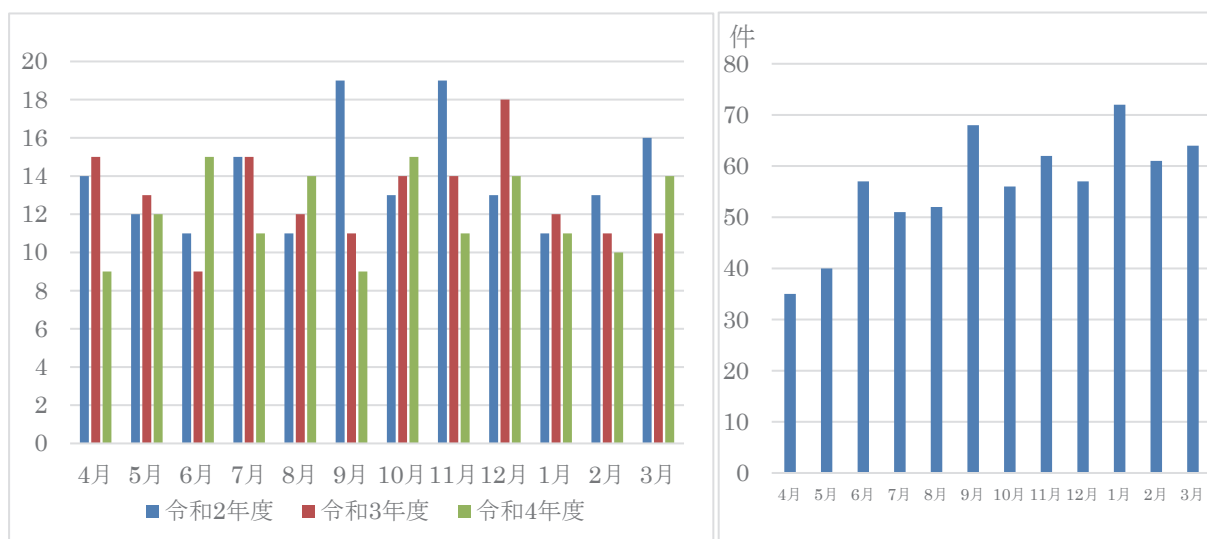


図 1 呼吸器外科手術件数

図 2 令和 4 年度化学療法件数